

# 平成30年度 朝日医療専門学校広島校

## 学校関係者評価委員会 評価結果

平成30年9月16日

(出席委員)

氏名	所属	任期	種別
宮迫 太一	公益社団法人広島県柔道整復師会 常務理事	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	企業・業界団体
竹内 健治	岡山県立津山東高等学校 元校長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	高等学校校長経験者
盛岡 政行樹	盛岡鍼灸接骨院 院長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	学生の保護者
中村 崇弘	己斐なかむら接骨院 院長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	本校卒業生

### (1)教育理念・目標(教育理念、目標、育成人材像)

課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
教育理念や教育目標等については、入学式等の行事での挨拶・学生便覧等の記載によって学生・保護者に周知しているが、十分に周知出来ているとは云えない。	今後はホームページ、入学案内、オープンキャンパス等により、広く入学希望者・学生・保護者に周知していく。	学生や教職員の目に留まる場所に掲示してはどうか。更に絞ったキーワードを決め、重点的に徹底しては。また、朝礼などの時間を使っても良いのでは。

### (2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)

課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
理事会・評議員会で決定した経営方針や事業計画をもとに学校長の指示の下、組織的に運営しているが、教職員に周知・徹底出来ているかは疑問。	期初だけでなく、様々なレベルの会議を通じて、理事会・評議員会の決定事項を教職員に周知させるとともに進捗状況の報告・チェックを実施していく。	特に問題ない

### (3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価・単位認定、資格取得の指導体制)

課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
カリキュラム全体としては外部評価の仕組みがない。また、企業からの講師に関しては柔整学科は2名の外部講師に実技等を担当して頂いているが、鍼灸は出来ていない。臨床実習に関しては、スポーツ現場実習等は充実しているものの、外部の施術所等で行う実習をどのような形で行うかが課題。	今年度より「教育課程編成委員会」を立ち上げ外部評価の実施、次年度より鍼灸学科に企業から外部講師に来て頂けるよう調整する。臨床実習に関しては、業界団体、医療機関と調整し外部実習を実施する方向で検討する。	臨床実習の外部での実施については、校内・外の調整が必要。例えばハラスメントが起こった際の対処など細部にわたった想定が必要。

### (4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)

課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
就職に関しては、希望者に対しては100%の就職率であり問題ない。又退学率も5%未満を維持している。しかし、国家試験に関しては合格率が100%にならない限り満足することは出来ない、成績の良くない学生に対する教育方法の見直しが必要。	1年生からの基礎学力の定着が不十分なことが多く、これまで3年に偏っていた補習・チューターを早期から実施していく。	高い目標(合格者/入学者 80%)達成にむけて頑張ってもらいたい。但し、教職員の過負荷には十分注意して頂きたい。

(5) 学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
本校は担任制をとっており、様々な相談をしやすい体制をとっている。又必要であれば保護者とも綿密に連携している。課題としては、これまで、社会人も多く入学していたのは働きながら学べる夜間部の存在が大きいが、入学者の減少により次年度より夜間部を廃止するため、社会人のニーズにこたえられないことである。	学校経営と直結するため解決策が見当たらないが、新たに設置する朝間部や既存の昼間部でいかに仕事と両立していくか、モデルケース等を示し入学希望者に提示していく。	特に問題ない
(6) 教育環境(施設・設備等、学外実習等、防災・安全対策)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
学生に対して行うアンケートの結果に基づいて随時改善を行っている。更衣室や柔道場などのキャバが不十分である旨、学生から指摘を受けている。	学生委員会が主導し、学友会等と話し合い、改善を図る。長期的には移転に際してはこれらの意見を反映すべく準備する。	特に問題ない
(7) 学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
学生募集については、適正に行われている。しかし、募集そのものについては入学年齢人口の減少や大学全入時代の影響、業界の不振等もあり非常に苦戦している。	広報委員会を中心に、高校への出前授業や高校スポーツ団体と提携し救護等を行うことで、鍼灸・柔整という資格の認知活動を行い、出願に繋げていく。	柔道整復学科は資格名称がわかりにくく、業界団体と共同で認知活動を実施していかなければならない。出前授業を積極的に展開する事で、長・短期的に効果が見込めるのでは。
(8) 財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
公認会計士にも監査を受けており、適正な財務状態である。しかしながら、学生の減少を踏まえると、不要な支出の削減が必要である。また、本校のホームページでは財務状況の公開が出来ていない。	引き続き経費の削減に取り組む。また早急にホームページ上に財務状況を公開する。	特に問題ない
(9) 法令等の順守(個人情報保護、学校評価)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
設置基準に則り、適正な運営がなされているが、学校運営全般の自己評価・第三者の評価の公開が出来ていない。	学校関係者評価の結果を踏まえて、公開する。	特に問題ない
(10) 社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)		
課題・現状	今後の改善方策	学校関係者評価
本校の強みを生かした、スポーツ現場や障害者スポーツの現場において救護活動等のボランティアは十分出来ていると自負しているが、日頃お世話になっている地元地域への貢献が出来ていない。	地域でのボランティア活動を企画し実施していく。	学園祭などを地域に開放し、地域の方との接点を増やし、地域の一員となるのが大切。スポーツ・障害者スポーツの救護ボランティアは素晴らしい。